



# 心の扉は 笑顔で開く



南山城村保健福祉課長

# 山本雅史 氏

心の扉は笑顔で開く。「鏡を笑わせる」ことを日課にしている。朝晩、自宅の鏡を見つめながら口角を上げ、笑顔づくりに取り組んでいる。「笑いが健康にいいというだけでなく、対人関係においても信頼を築く第一歩は笑顔だと思っています」。窓口業務の最前線にたつ課員にも「鏡を笑わせる」練習を勧めている。「ポイントは・チーズ・ではなく母音の「イ」が多い・ウィスキー・と発音することです」。笑いながら大真面目にそう教えてくれた。

### あの時はまいました

建設水道課長、産業生活課長を経て一昨年の春、保健福祉課長になった。「戸籍、保険・年金、福祉と間口が広い分野ですが、全く経験がありません。課員に教えてもらいながら、なんとか対応しているのが実情です。頼りないこと」と謙遜する。「いやいや、謙遜じゃないんです。課長になってすぐの決算監査や決算認定の際は議員さんらに説明しなければならぬのですが、なにしろこちらは新米課長。この時はさすがにまいました。恥ずかしくて言えませんが、体のある部分に変調をきたしました」とユーモアを交え本音をぼろり。

業務で心掛けていることを聞いた。「社会保障というインフラを担当させてもらっているわけですが、必要なサービスを必要とされる方に、もれなく確実に提供するのが一番の使命だと思います



初秋の曾爾高原にて

っています」と話す。「センシティブな情報を扱いますので、業務を終えたら机の上には何も無い『滑走路』のような状態にして帰つてと、課員に呼びかけています。当たり前のことですが、各種証明などを発行する際は2人体制で読み合わせをしています」

健康法は10年前から実行しているウォーキング。昼休みも役場周辺を歩く。目標は1日1万

歩。「自宅から役場へ出勤するまでに自分の足で歩く距離といえわずか200メートルぐらい。これではあきませんでしょう!」。昨春からは京都府市町村職員厚生会の健康づくり事業「みんなのウォーキング」にも挑戦している。「一定の距離を歩くと、スタンプカードがもらえ府内の市町村の特産品があたるんです。つい先日25万歩を達成し、南丹市の栗ジャムなどをちょうだいしました」。万歩計を見せながら嬉しそうに笑った。

### 二人で景色を楽しみながら

2年前から奥さんとともにトレッキングを始めた。これまでに御在所岳や曾爾高原など14カ所を歩いた。「二人で景色を楽しみながら、頂上に到達した時は気持ちがいいですよ。そうですね、妻とは何でも一緒に行動します。仲はいいですね」。うらやましい限りです。

南山城村の茶畑景観が京都府景観資産に登録、府選定文化的景観に選定された際、産業生活課長として携わったPRポスターを背景にポーズ写真をお願いした。「私に要求されているのは笑顔ですよ。分かりました。ウィスキー」